令和３年第１４回　吉田町教育委員会

１　開催期日　　令和３年１２月２４日（金）
　　開会　午後　　１時３０分
　　閉会　午後　　３時３０分

２　場　　所　　吉田町役場　５階会議室２

３　出席委員　　塚本　成男　　北澤　雅恵
　　増田　真也　　中村　成宏

４　議場に出席した者の職氏名　　教　育　長　山田　泰巳
　　学校教育課長　粂田　真男　　生涯学習課長　内田　宏一
　　主席指導主事　水嶋　浩之　　指 導 主 事　平井　奉子
　　指 導 主 事　谷澤　宏昭　　学校教育課統括　山内　康弘

５　傍聴人数　　０人

次　　第（会議録概要）

１　開　会

２　教育長の報告　資料№.１
⑴　報告事項　１２月の教育委員会の行事について
⑵　町内教職員の状況
⑶　その他　県市町対抗駅伝競走大会、交通安全ポスターコンクール表彰　等

３　会議録署名委員の指名　中村委員

４　議　事
⑴　報告事項
ア　生徒指導について　【非公開】　資料№.２
イ　令和３年度就学援助費の認定について　【非公開】　資料№.２
ウ　コミュニティ・スクールについて　資料№.３

（委員からの質疑・意見）

・教育委員会として、委員やディレクターの役割を定めるのか。　⇒　町としてこういう姿を目指して欲しい、地域の方をこういうふうに学校に取り入れていって欲しいというものは、今、運営計画という形でまとめている。その中では、「地域を生かしてください」「地域に自分たちの力を生かしてください」「地域を学んでください」の３つの柱を満たす教育活動を展開するために、まずコニュニティ・スクールをつくってもらい、それからＣＳディレクターや運営協議会委員の役割などもまとめて先生方に示し、あとは学校でどのようにアレンジするかは任せますという形でいく予定である

・予算は、どのくらいを予定しているか。　⇒　人件費として全体で２００万円くらい、その他の運営費として１校当たり２万円を予定している。

・先日、他市町のコミュニティ・スクールの取組について、ＣＳディレクターの個性が学校によって発揮されていて、いろいろな違う取組がされており、それが学校の活性化につながっているという報告をいただいた。吉田町でもＣＳディレクターの個性が発揮されるような仕組みづくりができたらと思う。また、ＣＳディレクターと話す機会があればいろいろと聞いてみたい。　⇒　機会は設定できるので、希望があれば実施したいと思う。

・ＣＳディレクターの勤務時間が決められているが、ＣＳディレクターが不在の時の対応などはどうなるのか。また、勤務時間の調整が難しいので、ボランティア感覚になってしまって、適切な勤務時間や時間外労働の管理が難しいのではないか。　⇒　ＣＳディレクターは学校に常駐していないので、不在時の体制を学校で整える必要がある。勤務時間は年間４５０時間としてあるので、行事の前などは必要に応じて多めに勤務してもらう等、繁忙期と閑散期で柔軟に対応していただければと思っている。また、実際に運用を始めてみて、より効果的な運用となるよう、ディレクターや学校と協議しながら適宜見直していきたいと思っている。

・ＣＳディレクターが学校からの要望に応じ調整等を行うイメージだが、学校運営協議会に諮って合意形成されないと動けないのか。　⇒　学校運営協議会は、学校の基本的方針の承認、必要な人材の要望等少し大きな事項について協議するものであり、学校運営協議会の役割や関わり、ＣＳディレクターの調整等の進め方については、今後決定していきたいと思っている。

・学校をオープンにしていくというところが、コミュニティ・スクール推進の大きな理由だったと思うが、国や県も含め、コミュニティ・スクールをあえて作って、求めているところがぶれないようにしなくてはいけないと思う。今も地域と語る会などをやってきたが、それが集約されるということか。　⇒　一番求められていることは、学校が抱えている問題を地域も入って解決することだと思う。今のような多くの人に来ていただいて話し合う会も必要であり、ＣＳディレクターも入ると思うが、それとは別に学校運営協議会は組織される。多

くの人の意見を聞く場と少人数で大事なことを決めていく場の両方が必要だと思う。今まではその両方を学校がやってきたが、これからは地域の人が入って運営していくこととなり、地域も学校づくりの当事者にしていく。学校にもその意識を植え付けていく。学校と地域が一緒にやっていくという意識を高めていく。それをＣＳディレクターが入ってやっていくというのが大方針である。そして、向かっていく先は、子供たちを皆で育てるということ、課題を解決していくことを共有することから始めていくものだと思う。

・コミュニティ・スクールのそもそもの趣旨は、地域とともにある学校づくり、地域も学校づくりに参画するということから始まっている。先程あったようにＣＳディレクターを中心として、地域の人を学校の中にいろいろと取り入れていくと。地域を取り入れながら学校をつくっていくことが、手頃な始まりになると思う。地域の皆で学校をつくる組織である学校運営協議会をつくることが、一番の基になることだと思う。協議会に人事権があるわけではないので、人事について意見を述べることはできるが、そこをメインに押し出すのではなくて、地域の人たちが一緒になって地域の学校を一緒につくっていこう、子供を育てていこうというとことを押し出していかないと、組織そのものが上手くいかないのではないかと思う。また、教育委員会が構想を練ってお願いしたいことを学校の職員等に伝える機会が必要だと思うので、いわゆる連絡協議会的な組織を立ち上げて、それぞれの学校の進捗状況を聞いたり、実際やっていく上での課題であるとか、他校の良さを自校に取り入れていくとか、そういった会を１年目はやってというように、まず皆がコミュニティ・スクールのイメージを持つところから始めていかなくてはいけないと思う。中央小学校長は、昨年度、前任校でコミュニティ・スクールをつくり上げてきたので、前任校でのＣＳディレクターの実際の動きのイメージがある。それを現在の学校、新しい地域でいかすためには、また一工夫が必要だと思うが、そういう話を聞くのも参考になる。また、いろいろな市町の取組については、教育委員会から情報を取り寄せられるだろうし、県のコミュニティ・スクール連絡協議会というものがあって、吉田町はまだコミュニティ・スクールを導入していないが、参加することができ、そこで先進的な事例が見られるということで、ディレクター委嘱予定者と学校に声をかけ、参加希望がある。町でも必要な会を考え、年間計画を立てた方がよいだろうと思っている。コミュニティ・スクールの動きは、教育委員も知りたいところでもあると思うので、例えば教育委員会の学校訪問時に、ディレクターに様子を聞く時間を取る等することで、教育委員会としても掌握と助言ができると良いと思う。なにぶん初めてやることなので、皆でイメージを共有しながら、どんなことができるかということを少しずつ進めていく形になるのだと思う。この資料は１１月末時点の進捗状況なので、教育委員会は必要な規則等の整備、学校は学校運営協議会をどのような形で年間計画に入れていくかを進めていかなくてはいけないと思うので、この進捗については、教育

委員会の中で改めて状況報告をしたいと思う。

エ　Ｇｏｏｇｌｅ親子体験会について　資料№.４

（委員からの質疑・意見）

・学生はたくさん来たのか。吉田町の人はいるのか。　⇒　常葉大学から１４名、信州大学から２名が来てくれた。吉田町の人はいない。３、４年生がほとんどで、２年生が少しだった。

・今回は、初めて初級、中級、上級とレベル別にクラスを分けた。初級は年長児が多かった。社会教育委員や教員補助の先生も、初級を受けた。小学生はほぼ中級に集まって、３年生以上は上級にチャレンジした。上級は１クラスだけだったが、保護者が驚いていた。保護者が子供の頑張りを見ることができる時間であり、それが一番保護者の理解につながると思った。

・動画は、どのような形で配信されるのか。保護者もその情報が観られるのか。
⇒　Google・for・Education のホームページから動画集として出て来ると思う。全国配信なので、観たい保護者に伝えることはできる。

・「使い方」の上級、中級、初級なのか。　⇒　技能的なもので区分した。初級は子供たちが順番に絵を書いてしりとりをしていく「お絵描きしりとり」、中級は、授業で使っているような内容で、写真を撮りスライドに張り付け、好きな物を書いて自己紹介を作ってみようというもの、上級は、あまり授業では使わないが、Google サイトで、吉田町の魅力を紹介するホームページをつくった。

・ＧＩＧＡスクールは、プログラミング教育と関係あるのか。プログラミング教育を取り入れることになっているが、どうなっているのか。　⇒　大きくは、情報活用能力の育成の中にプログラミング的思考の育成がある。ＧＩＧＡスクール構想の目的も、情報活用能力の育成なので、ＧＩＧＡスクール構想の中でもプログラミング的思考を育てることは含まれている。少し前に、小学校でのプログラミング教育を特ち出したので、ＴＣＰトリビンスプランでもプログラミング教育が盛り込まれているが、ＧＩＧＡスクール構想の中の一つとなっていると言える。例えば、５年の算数、６年の理科では、必ずやるよう指導要領に載っているので、ＭＥＳＨを利用する等で実施している。ただ、今はＧＩＧＡスクールの端末使用でいっぱいなところはある。

・端末でプレゼンをつくる能力と、ＭＥＳＨを使ってのプログラミング能力は、同じ力なのか。　⇒　同じ力ではないが、プログラミングは、事実があって、それを分解して、それを手順として並び替えるもの、いかに段取り良くやるかという思考の仕方を学ぶものである。

・プログラミング教育がされているかを確認したい。　⇒　論理的に考えること、「分解します、順序良く並び替えましょう、条件を織り交ぜて」というものを考える力、論理的思考の育成がプログラミング教育であり、実施している。

・町長、副町長等が、自彊小学校で授業参観を行い、実際にＩＣＴを使った授業を見ていただいた。そこで１年生からパソコンを使い慣れている状態の授業を見ていただき、町長等が驚いていた。学校教育が変わってきている様子を見ていただいたのは、大変有効であったと思う。電子黒板があるクラスと普通の大型モニターがあるクラスとを見たが、電子黒板があるクラスは、そこで画面を拡大縮小したり、直接そこに書き込んだりしながらやっているので、使い方に広がりがある状態を見ていただいたし、６年生は総合的な学習で吉田町をＰＲするものをつくったが、プレゼン資料などをしっかりと作っていたので、学校ごと、先生ごとに違いがあるとは思うが、かなり自彊小学校が進んでいるということが見て取れた状況であった。来年度も教育委員の学校訪問を行うが、今年よりもさらに効果的な活用というところに進んでいければと思う。その第１歩として、保護者に知ってもらうということを目的に体験会を３回行ったが、この在り方も来年度はどうしていくかを一つの課題として受け止め、発展させていければと思う。

５　その他

・放課後子ども教室について
・令和３年第４回吉田町議会定例会について
・今後の教育委員会等の予定について

６　閉　会